

50周年記念誌



いつも寄り添う、桑野地域公民館

～これまでも これからも 地域とともに～



郡山市立桑野地域公民館

目 次

ごあいさつ	2
祝 辞	4
公民館の歩みとコミュニティ	6
思い出のアルバム	10
施設案内	15
歴代各種団体長	16
桑野地域公民館の役割	18
各種表彰	20
メッセージ	21
マスコット説明	31
記念式典	32
地図	34
編集後記	35



ごあいさつ

桑野地域公民館設立 50 周年記念実行委員会
実行委員長 藤 橋 定 行

郡山市立桑野地域公民館設立50周年にあたり実行委員会を代表してご挨拶申し上げます。

桑野地域公民館は昭和40年代郡山市が急速に発展し人口の増加、宅地化の拡大が進み、桑野地区も分譲地や宅地化が進み、昭和46年には自治省から「桑野コミュニティ」の指定を受け地区の球技大会等が開催され住民同志の交流が行われるようになりました。

そうした中、桑野地区都市計画も実施され、その中心地に昭和49年に公民館が設置されました。この場所は桑野小学校・桑野保育所と隣接する場所であります。地理的便利さもあり、町内会の利用はもちろん各種の会議、趣味のサークル等の利用が多くなり、平成8年には公民館の増改築が行われました。

公民館は地域のコミュニティーセンターの役割はもちろん、災害時の避難所としての役割を持っております。12年前の3.11東日本大震災に、さらに令和2年7月に発生した大ガス爆発事故でも避難所として役割を果たしました。

桑野地区には、11の町内会があります。しかし、各町内会とも独自の町内会集会所を持っておりません。その理由の1つが公民館が地区の中心にあり便利であることです。

近年では市内の各種団体やサークル等も利用が多くなっております。その成果として今年11月には、福島県の県教育文化関係表彰で「社会教育関係功績顕著社会教育関係施設」として表彰を受けております。

今後の希望としては建物が50年経過していること、高齢者の利用も多くなり、「利用しやすい場所」「誰でも気軽に立寄れる場所」「みんなが集える場所」に地域を挙げて協力してまいりたいと思います。

結びに、この記念事業に当り桑野地区町内会連合会の各町内会より多くの賛同、また、桑野西町内会からは公民館館庭にある「桑の木」の由来を説明するパネルの寄贈を賜りましたことに深く感謝申し上げます。





ごあいさつ

郡山市立桑野地域公民館

館長 吾妻 敦

このたび、「50周年記念誌」発刊にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

本公民館は、昭和49年に開館して以来、今年、半世紀という大きな節目を迎えました。この栄えある50年の歴史と伝統の奥には、歴代の館長をはじめとする本公民館職員の方々の営々として続けてこられたご奮闘と、設立以来変わらぬご厚情とご支援をいただいている地域の皆様や公民館を利用する皆様のご協力と熱意があったからです。

本公民館の館名が「桑野」と名付けられたのは、安積開拓の中で桑園の開発を進め、先人の尊い血と汗の中で桑畑を広げてきた結果生まれた、「桑野」という名を残したいという地域の方々の強い思いがあったからです。厳しい環境の中で先人が残してくれた「たくましさ」「協働の心」は、本館にある桑の木でも語り継がれ、今も公民館職員の中に、そして桑野の地域の中に息づいています。

平成8年に桑野コミュニティ指定25周年、公民館増改築記念行事が行われ、その後の25年間の中で特に大きなことは、平成23年3月11日に東日本大震災、原子力発電所事故が発生しました。一時期公民館が住民避難場所となったりしたこともありましたが、運動制限や食への不安、そして、根強い風評被害と風化の進行など厳しい状況が続いていました。

そのような困難の中、地域の方々、利用者の方々と手を携え、生涯学習の拠点である公民館の充実に取り組んできました。そのご尽力のおかげで、希望を失わず、共通の活動をする仲間との学び合いを通して明るく元気に過ごしてきました。

このように、本公民館は、設立以来、質の高い教育活動の創造はもちろん、地域と共に歩む公民館を目指し、伝統をつくり出してきました。そして、地域や利用者の皆様の人間味あふれた温かな理解と協力が公民館を支え続けてきました。まさに、地域、公民館職員、利用者との協働の力が、チーム桑野としてまばゆい輝きを放っています。

昨今の核家族化、少子化等に伴い地域力や家庭の教育力の低下が懸念されており、地域住民の連携や町内会活動・子ども会活動のあり方は多くの課題に直面し、新たな地域社会の形成が求められています。

このために、地域に根ざし、地域活動の拠点としての公民館の果たす役割は、ますます重く、また公民館に対する期待も多様化しており、地域で生活する人々の視点に立った活動の展開と、さらに地域づくりの人材育成も担っていくことが期待されています。

本公民館では、この地域課題の解決の一助となるよう、職員同士で課題を共有し、様々な事業を意図的に実施してきました。この継続した活動が評価され、「福島県教育・文化表彰」功績顕著な社会教育関係施設として令和5年11月7日に表彰されました。

50周年という新たな出発に際して、10年後、20年後、そして50年後の100周年に向け、輝かしい伝統をさらに発展していけるよう、一層努力を積み重ね、皆様のご期待に応えていきたいと考えております。これまで本公民館の充実発展にご尽力くださいました皆様にご心から感謝申し上げますと共に、今後ますますのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



桑野公民館の 創設50周年によせて

郡山市議会議員

栗原 晃

この度は、桑野公民館の創設50周年を迎え誠にありがとうございます。また記念誌を発行するにあたり、寄稿させてもらう機会を頂き感謝申し上げます。

桑野公民館の創設50周年を機に改めてこの地域の歴史をひもといていきたいと思えます。富国強兵と殖産興業は明治政府の基本政策で、とくに士族授産による開拓事業は、不平士族に職を与えて殖産興業の一助とするいわば一石二鳥の施策であり、士族たちは生活の困窮と新時代への不適合から不平不満がたえず、全国各地で士族の反乱が起き極めて重要な政治課題の一つでありました。明治政府は全国に原野を開墾して入植を進めるため、候補地を探していたところ内務卿大久保利通から派遣された内務属の二人の技術者に中条恒政が安積原野を開拓地として優れていることを説き、猪苗代湖の水を注ぐことで水の問題は解決できるとし、その復命書が政府を動かす原動力になり、安積地方における士族移住と安積疎水工事は国の直轄事業になったのです。しかし、その決定には「開成社」の存在が大きな影響を与えていました。安積疎水が完成する10年前の明治6年11月に郡山の富商25名が加盟した「開成社」が設立され、安積原野の一部の大規模開拓(開成山・桑野村)が始まったのです。「開成社」は小作人による耕作を立前としていましたが、政府事業は移住士族の授産を目的にしている、投下資本も開墾反別も圧倒的に多かった。政府が大規模開墾の適地を探し求めるにあたって、福島県の一角に商業資本による開墾事業がすでに展開されていたという事実は大きく政府の意をとらえ、ここ安積原野の開拓を決意させる有力な導因になり、「開成社」の存在は安積開拓全般に寄与したといえるでしょう。

明治6年「開成社」の開墾が始まると各地から小作人として入植する人や、一般自力開墾人として付近から移る人もあって荒涼とした大槻原に人煙が立ちはじめ、わずかに数年のあいだに変貌を遂げ、典型的な開拓村を形成してきました。そして明治9年4月人口700人の「桑野村」が誕生しました。しかし、村ができましたが諸村からの集まり者でにわかになできた新村であるため、古村のように落ち着きがなく、村の指導者たちはこの問題を腐心していたようで、県立中学校(現安積高校)を開拓地に誘致するのに積極的に働きかけた一つの理由であったらしいです。

また、開成山大神宮はこの時はまだなかったらしく、当時、開成館の北隣りに放れ森と呼ばれる地蔵があり、その山頂に設けられた^{ようばいじよ}遥拝所が開成山大神宮の前身で、開成社長阿部茂兵衛、神官惣代、各村用掛惣代らが連名で「神社建設願書」を安場県令に提出し、「岩代大神宮」とすることを願い出ました。しかし、神社に国名を冠するのは伊勢大神宮の呼称に類似して不都合だということで許可されなく、この地名から開成山大神宮として明治8年4月に許可され今に至っているとのこと。

当時の桑野村の収穫は今日では想像もできないほど少なかったようで、だいたい後の大正5年に発表された宮本百合子作「貧しき人々の群れ」はこの開墾地農民の生活を描いたものであり、祖父の中条恒政は、東京の屋敷を売り払って家族を引き連れて開成山に移住して、青年後輩の育成に心骨を注ぎ余生をそのために尽くしました。

その後、桑野村の農地は住宅地や道路、公園、学校、商業地へと都市化に変貌していく中で桑野公民館が昭和49年6月に開館しました。以来、公民館を利用する人は年間3万人前後を数え、コロナ禍が収束に向かっている今日以降も利用者は増加すると予想されます。創設50周年を迎えることは大変喜ばしいことではありますが、それはまた建物自体が老朽化に向かっているということでもあり、高齢者の利用も多いことから今後の課題としては、利用者さんの利便性を考えながらどのような施設にするのか、市の公共施設等総合管理計画の個別施設計画の推移を見ながら地区をあげて要望して行かなければならないと考えます。



桑野地域公民館設立50周年 おめでとうございます

桑野コミュニティ元会長

青 砥 照 男

公民館行事については、いろんな思い出があります。スポーツ関係行事・文化祭の行事、町内会関係の行事、桑野地区明るいまちづくり推進委員会の行事等たくさんありました。懐かしく思い出します。

コロナの影響で困難な時にあって、球技大会・体育祭を通して、地域住民のふれあいと体力増進を深め、文化活動を通して、交流とふれあいを深める事ができないなか寂しさを感じているこの頃です。

でも、今年は子供たちのオセロ大会や町内会からたくさん参加した球技大会や体育祭、文化祭が実施されたことは喜ばしいことです。

更に、毎月出されている「公民館だより」は公民館活動のよりどころです。

私たち、身体が不自由なものたちにとって唯一「公民館だより」は公民館活動のもっとも理解できるものです。もっともっと予算を取り、読みやすい親しみのある充実した「公民館だより」の発行を望みます。いろんな行事に参加している人には理解されるが「公民館だより」がよりどころにあってはさらなる充実をお願いします。

今、この原稿を書くに当たって、集まることの自由さや楽しかったことを思い浮かべます。時間が過ぎるのを忘れて皆でやった盆踊りや、集会の後の酒を酌み交わす懇親会等々それは、それは楽しかった。今はコロナの影響で困っていることでしょう。

集まる・食べる・語るのが不自由な時です。しかし、このことが生活して行くのに最も大事な事だと思います。早く集まる・食べる・語るのが自由に楽しくできるようになりたいものです。

結びに、桑野地域公民館の今後益々の御発展と、関係者の皆様の御健勝、御多幸を心から御祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

公民館の歩みとコミュニティ

1. 公民館の歩みとコミュニティ

公民館は、戦後間もない昭和21年7月5日、文部次官から各地方長官へ「公民館の設置運営について」が通牒されたことによって、全国的に公民館の設置奨励が図られることになりました。郡山市においては、昭和23年に「公民館建設期成同盟会」が結成され、各町に公民館が相次いで設置されました。当時の公民館は、いずれも学校や役場の一室に事務所を置く、いわゆる「看板公民館」と呼称されたもので、公民館職員は、重いナトコ映写機（GHQから貸与された映写機）や紙芝居をリヤカーに積んで、町内会の集会所あるいは学校の校庭で上映するなど、文字通り「動く公民館」として日夜活動していました。

昭和24年6月「社会教育法」が制定され、各市町村において公民館が急速に進展していきました。福島県では、全市町村に公民館が設置され、これは全国トップでその水準の高さが証明されました。

公民館建設は、公民館活動の活発化に伴って急ピッチで進み、昭和27年に第1号として日和田町に独立公民館が建設されました。そして、昭和46年に桑野地区が自治省のモデル・コミュニティ地区として指定され、新興住宅地区のコミュニティセンターとして昭和49年に桑野公民館が新設されました。

2. 桑野地区の概要

(1) 地勢

桑野地区は郡山駅から西に約4kmに位置しています。北にビッグハート・仙台出入国在留管理局郡山出張所、市営希望ヶ丘団地、南に郡山女子大等の教育機関、東に市庁舎をはじめ、官公庁各種機関や市街地公園の開成山公園、野球場、陸上競技場、弓道場、総合体育館、開成山屋内プールなどがあります。また、西に4号国道あさか野バイパスが縦貫し、市営小山田団地、郡山高校があります。交通の便は古くからあった49号国道の他にうねめ通り、新さくら通り、4号国道あさか野バイパス等と利便性がよく住みやすい地域です。

(2) 歴史

明治初めの当桑野地域は、大槻村、郡山村、富田村にまたがる大槻原とよばれる所でありました。明治6年に開成社が創設され、開拓道路（現在の49号国道）の両側に家屋ができ、明治9年6月に桑野村が誕生しました。当時は、南隣の開成地区と共に開拓事業の中心地域でありました。その当時の住民は、二本松藩や米沢藩などの旧士族をリーダーとしたほとんどが近隣の村からの開拓入植者で、もともとの定住者は少なかったといわれています。

「桑野」の由来は、養蚕業のため地区全域に桑を植えたことによるもので、開成、鶴見垣、葉根屋敷、桑野清水台、天正垣、朝日、並木の各町内会にまたがる広大な桑野村の中で、「桑野」の名を今に残すのは、桑野一丁目から桑野五丁目の町名、桑野保育所と桑野小学校や桑野地域公民館のみです。

3. 公民館の歴史

桑野地域公民館の歴史は昭和46年に自治省から、福島県唯一の「第1次～モデル・コミュニティ」の指定を受けたことから始まります。翌47年には「桑野小学区モデル・コミュニティ推進委員会」を組織し、

コミュニティセンターの建設を郡山市に働きかけてきました。この成果が実って、コミュニティセンターを兼ねた桑野公民館が昭和48年着工、同49年オープンし、平成2年4月1日付けで地区館から地域館となりました。令和5年6月には、開館50周年を迎えました。以下にオープン後の歩みを示します。

(1) 公民館の歩みとコミュニティ

- 昭和 43年 4月 郡山市立桑野小学校開校
- 昭和 46年 9月 自治省より「モデル・コミュニティ地域」の指定を受ける
- 昭和 47年 8月 「桑野小学区モデル・コミュニティ推進委員会」を組織
- 昭和 47年 第1回桑野地区市民体育祭の開催
- 昭和 48年 第1回桑野地区市民球技大会の開催
- 8月 桑野コミュニティセンターの竣工
- 昭和 49年 6月 郡山市立桑野公民館（兼コミュニティセンター）開館
落成祝賀会の開催
- 10月 湖南町より「桑の木」を館庭に移植
- 昭和 51年 4月 郡山市立大島小学校開校に伴い「桑野コミュニティ推進委員会」となる
- 昭和 55年 6月 郡山市立大島公民館開館（館区変更）
- 昭和 62年 6月 郡山市立小山田公民館開館（館区変更）
- 平成 元年 12月 郡山市立桑野公民館外装の完成
- 10月 市職員の館長に代わり委嘱館長となる
- 平成 2年 4月 郡山市立桑野地域公民館となる
市職員の主事に代わり嘱託主事となる
- 平成 3年 3月 桑野地域公民館運営審議委員会が解散し、中央公民館運営審議委員会に統合
- 平成 6年 10月 玄関自動ドア・スロープ・車椅子用トイレの完成
- 平成 7年 10月 本館に配置した中央図書館の蔵書を返還
- 平成 8年 1月 本館の会議室と資料室の増築（72.88㎡）
小集会室・2Fホール・第1和室の改築
- 4月 大集会室・階段・事務室・研修室の床張り替え・壁塗装工事
- 5月 実習室の給湯配管・蛇口交換・床張り替え・壁塗装工事
本館北側駐車場舗装・西側フェンス工事完了
- 6月 桑野コミュニティ指定25周年・桑野公民館開館22周年、増改築記念事業として、記念誌発行・ステージ幕の設置・祝賀会の開催
- 平成 9年 12月 水道の給水管更正工事完成
- 平成 11年 3月 放送機器新規常設完備（カセットデッキ・AVラック＝クラブ連絡協議会・桑野コミュニティ推進委員会）
- 平成 11年 4月 桑野北町町会が、49号国道を境に分離し桑野町内会、桑野第三町内会および下亀田西町内会と改める
- 平成 12年 4月 希望ヶ丘町内が富田西地域公民館区として分離
- 平成 13年 10月 事務室流し台改装工事完成
- 平成 15年 2月 1階第2和室・第3和室・2階第1和室改装工事（畳・襖・照明・障子・ブラインド等、新規交換）
- 12月 全館外壁塗装及び防水工事。全外灯取替え（一部新しく設置）非常階段ペンキ塗り替え。自転車置場塗装と一部屋根張替え
- 平成 16年 12月 事務室南側側溝・館庭フェンス工事
- 平成 17年 4月 市公民館管理体制の改正により臨時職員を廃止し、嘱託主事3名となる

- 平成 18年 2月 屋上・2階ベランダの防水工事
12月 外物置建替え工事完了
- 平成 20年 7月 実習室の流し台（3台）の入れ替え
- 平成 21年 3月 本館北側の側溝蓋取付け工事実施
12月 館庭舗装（駐車場）と東側花壇撤去工事
- 平成 22年 4月 桑野地区明るいまちづくり推進委員会が設立
- 平成 23年 3月 東日本大震災発生により公民館建物に一部被害発生
また、3月11日から17日まで避難所となる
8月 放射線の影響を考慮して、盆踊り大会を大集会室で開催
桑野地区親善球技大会と桑野地区市民体育祭は中止
11月 毎週月曜日に玄関前と研修室内で放射線の測定開始
- 平成 24年 3月 会議室で市による食品放射能測定開始。測定担当者2名配置
- 平成 25年 2月 トイレ改修工事完成
8月～9月 敷地及び屋上の徐染
- 平成 27年 3月 食品放射能測定終了
- 平成 28年 11月 グランドピアノノ寄贈（大集会室）
- 平成 29年 3月 アスベスト撤去工事完了
1階第2・第3和室、2階第1和室の畳替え
館庭南側の桜、藤棚の撤去
9月 門扉・非常階段塗装（郡山高等職業能力開発校による）
10月 駐車場看板3枚設置（無断駐車お断り）
- 平成 30年 1月 耐震診断の結果「倒壊、崩壊する危険性が低い」との評価
- 令和 元年 5月 公民館駐車場部分補修工事
6月 屋外テント寄贈
8月 市総合防災訓練開催会場
- 令和 2年 4月 会計年度任用職員制度スタート
6月 新型コロナ感染拡大防止により、共催事業等中止
7月 飲食店ガス爆発事故に伴う避難所を公民館内に開設
- 令和 3年 2月 地震により食器類、壁に被害あり
3月 公民館外壁工事
1階第2・第3和室、2階第1和室の襖張替え
おもいやり駐車場設置
4月 小集会室壁紙張り替え
5月 新型コロナ感染拡大防止により、共催事業等中止
7月 大集会室暗幕2カ所交換設置
8月 新型コロナまん延防止等措置のため利用制限（8/23～9/30）
10月 スタンドピアノノ寄贈（小集会室）
インスタグラムにて情報発信開始
市花いっぱいコンクール「奨励賞」受賞：老人クラブ連合会桑野支部
- 令和 4年 2月 交通安全協会桑野支部「セーフコミュニティ賞」受賞
3月 駐車場ライン引き
5月 新型コロナ感染拡大防止により、青少協の事業を除く共催事業等中止
7月 桑野地区防犯協会「優良防犯表彰」受賞

- 令和 5年 2月 設立50周年キャラクター募集
- 3月 設立50周年キャラクター投票
玄関にバリアフリー手すり設置
- 5月 新規講座「ふくしま駅伝郡山市チーム監督直伝ランニングレッスン」実施
- 6月 地区球技大会4年ぶりに種目をグランドゴルフにして開催
女子トイレ1か所ウォシュレット対応に工事
桜の苗木植樹（福島トヨペットより）
小集会室は入口にバリアフリー手すり設置
- 10月 第49回桑野地区市民体育祭を4年ぶりに開催
開館50周年記念式典・第51回桑野地区市民文化祭4年ぶりに開催
創立50周年キャラクター名前決定「くわたん くわぼん」
桑野西町内会より「桑の木」パネル寄贈
- 11月 県教育委員会より、県教育・文化表彰功績顕著な社会教育関係施設として表彰される



くわたん くわぼん



青少協主催 子ども達の笑顔が戻ったオセロ大会



観客を入れての2年ぶりの開催「主張大会」



思い出のアルバム

コミュニティ作りの本拠 桑野公民館が完成



開館した桑野公民館

活動に新たな決意

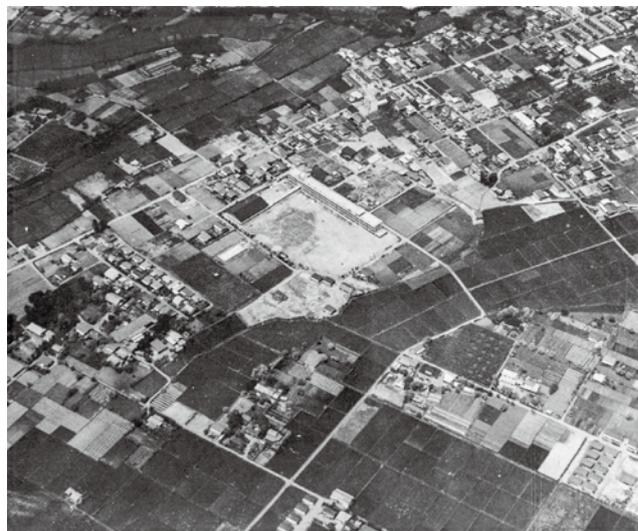
本格的な設備ズバリ 盛大に開館式

四十六年、全国四十府の「コミュニティ」建設に推され、郡山「センター」として中心進められる。また、たまたま、市、桑野公民館に「コミュニティ」

開館式は、桑野市役所にて、コミュニティ推進委員の伊藤委員長が出席し、高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。

開館式は、桑野市役所にて、コミュニティ推進委員の伊藤委員長が出席し、高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。

開館式は、桑野市役所にて、コミュニティ推進委員の伊藤委員長が出席し、高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。高橋市長が祝辞を述べた。



(第三種郵便物認可)

桑野公民館のシンボルに

樹齢80年、桑の大木を記念植樹

郡山市桑野地区にさる六月、町福段で育った樹齢八十、高さ五、直径五寸と、桑にしては大木。レッカー車で運搬、同じく、

同地区は、四十六年、全国で四十番目の「コミュニティ・センター」地区として、自治体から指定された。以来、桑野地区のシンボルとして、

同地区は、四十六年、全国で四十番目の「コミュニティ・センター」地区として、自治体から指定された。以来、桑野地区のシンボルとして、

同地区は、四十六年、全国で四十番目の「コミュニティ・センター」地区として、自治体から指定された。以来、桑野地区のシンボルとして、



植樹される桑の木

公民館正面左側に同委員、同地区社会補助委員、同公民館員ら十数人がかりで植樹された。青々とした葉を付けた桑の木は堂々としてまじり、桑野地区のシンボルとして、



スポーツ大会

運動会



小学生 球技大会



球技大会



盆踊り大会



敬老会



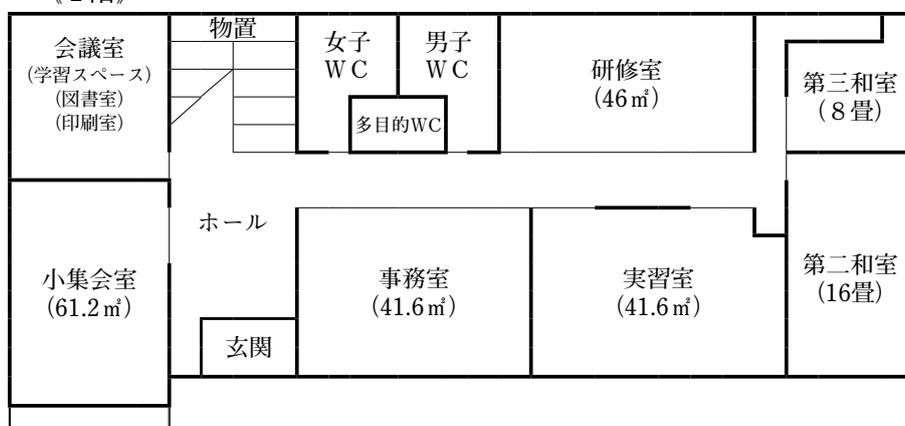
花いっぱい運動



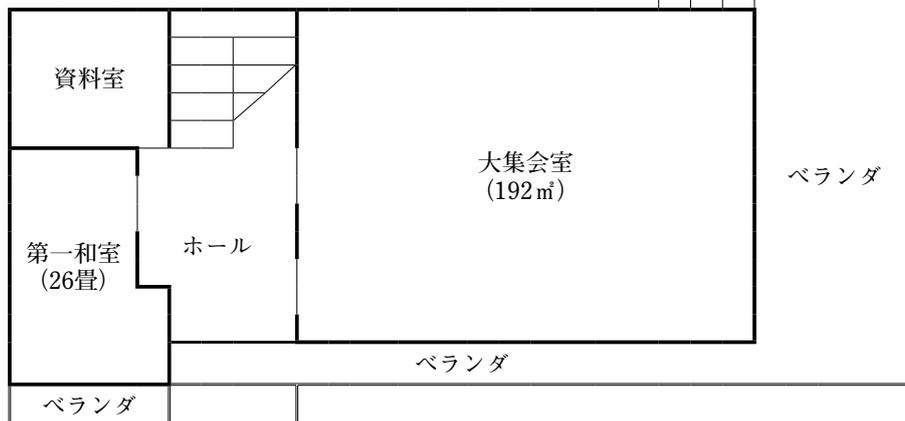
施設案内

○敷地面積		2,726.74㎡		
○花壇面積		65.74㎡		
○建築面積	既設	667.84㎡	増築	82.60㎡ ⇒750.44㎡
○工事完成	既設	昭和49年6月	増築	平成8年1月
○建築工事	既設	4,617万円	増築	2,394万円

《1階》



《2階》



和室



大集会室



小集会室

歴代各種団体長

団体	町内連合会	コミュニティ	明るいまち	青少協	桑野小	郡山六中	交安協	婦人会	社会福祉協議会
役職名	会長	会長	会長	会長	校長	校長	支部長	会長	会長
昭47		伊藤 敏			長田 久男	加藤 四郎			
48		伊藤 敏			長田 久男	加藤 四郎			
49	伊藤 敏	伊藤 敏			佐久間正明	加藤 四郎			
50	伊藤 敏	伊藤 敏			佐久間正明	上野 寿郎			
51	伊藤 敏	上遠野国政			塚原 富一	佐藤 新治			
52	佐藤 五月	上遠野国政			塚原 富一	佐藤 新治			
53	宗形 善吾	上遠野国政			塚原 富一	佐藤 新治			
54	高橋 金蔵	大原 義寛		大原 義寛	塚原 富一	近内 長次			
55	佐藤足之助	大原 義寛		大原 義寛	塚原 富一	近内 長次	高橋 金蔵		
56	池下 久男	大原 義寛		大原 義寛	吉田 文雄	近内 長次	高橋 金蔵		
57	池下 久男	大原 義寛		大原 義寛	吉田 文雄	近内 長次	池下 久男		
58	穴戸 豊一	大原 義寛		大原 義寛	吉田 文雄	島田 敬夫	池下 久男	遠藤 君子	
59	穴戸 豊一	大原 義寛		大原 義寛	吉田 文雄	島田 敬夫	池下 久男	遠藤 君子	
60	穴戸 豊一	有賀 篤		大原 義寛	原 堅	島田 敬夫	池下 久男	遠藤 君子	
61	穴戸 豊一	有賀 篤		大原 義寛	原 堅	村上 智	池下 久男	遠藤 君子	
62	有賀 篤	有賀 篤		大原 義寛	原 堅	村上 智	池下 久男	遠藤 君子	
63	高橋 善一	有賀 篤		大原 義寛	根本伊勢嗣	村上 智	池下 久男	遠藤 君子	
平元	高橋 善一	有賀 篤		大川原 実	根本伊勢嗣	中目 公男	池下 久男	遠藤 君子	
2	高橋 善一	国分 重三		大川原 実	上野 昭夫	中目 公男	池下 久男	遠藤 君子	
3	味戸秀太郎	国分 重三		大川原 実	上野 昭夫	中目 公男	池下 久男	小林 清美	
4	味戸秀太郎	国分 重三		大川原 実	渡辺 文夫	中目 公男	池下 久男	小林 清美	
5	味戸秀太郎	国分 重三		大川原 実	渡辺 文夫	中村日出彦	池下 久男	小林 清美	味戸秀太郎
6	大堀 博	土屋 英雄		大川原 実	渡辺 文夫	中村日出彦	池下 久男	小林 清美	味戸秀太郎
7	大堀 博	土屋 英雄		大川原 実	遠藤 太	中村日出彦	伊東 義美	小林 清美	味戸秀太郎
8	大堀 博	土屋 英雄		大川原 実	遠藤 太	渡部 陸雄	佐久間 勇	小林 清美	味戸秀太郎
9	大堀 博	土屋 英雄		大川原 実	半沢 纈喜	渡部 陸雄	佐久間 勇	小林 清美	味戸秀太郎
10	大堀 博	土屋 英雄		水野 一郎	半沢 纈喜	斎藤 勲	佐久間 勇	小林 清美	味戸秀太郎
11	大堀 博	土屋 英雄		水野 一郎	藤田 克孝	斎藤 勲	佐久間 勇	小林 清美	青砥 照男
12	大堀 博	土屋 英雄		水野 一郎	藤田 克孝	斎藤 勲	佐久間 勇	小林 清美	青砥 照男
13	土屋 英雄	土屋 英雄		水野 一郎	藤田 克孝	斎藤 勲	松脇由太郎	小林 清美	青砥 照男
14	土屋 英雄	渡部 博		水野 一郎	藤田 克孝	斎藤 勲	松脇由太郎	小林 清美	青砥 照男
15	土屋 英雄	渡部 博		水野 一郎	北條 光子	斎藤 勲	松脇由太郎	小林 清美	青砥 照男
16	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	北條 光子	安斎 文明	松脇由太郎	小林 清美	青砥 照男
17	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	鈴木 隆	安斎 文明	松脇由太郎	小林 清美	武田 祐輔
18	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	鈴木 隆	安斎 文明	松脇由太郎	小林 清美	武田 祐輔
19	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	工藤 博	佐藤 元二	遠藤 藤雄	小林 清美	武田 祐輔
20	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	工藤 博	佐藤 元二	遠藤 藤雄	小林 清美	武田 祐輔
21	土屋 英雄	添田 初美		水野 一郎	筒内 善信	伊東 豊	遠藤 藤雄	小林 清美	遠藤 君子
22	青砥 照男	青砥 照男	青砥 照男	水野 一郎	筒内 善信	伊東 豊	大堀 博	小林 清美	遠藤 君子
23	青砥 照男	青砥 照男	青砥 照男	水野 一郎	筒内 善信	伊東 豊	大堀 博	小林 清美	藤橋 定行
24	青砥 照男	青砥 照男	青砥 照男	須藤 秀治	影山 琴子	富樫 公一	大堀 博	小林 清美	藤橋 定行
25	藤橋 定行	24年度未解散	青砥 照男	須藤 秀治	影山 琴子	富樫 公一	大堀 博	小林 清美	藤橋 定行
26	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	小林 希一	鈴木 訓夫	大堀 博	小林 清美	藤橋 定行
27	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	小林 希一	鈴木 訓夫	大堀 博	小林 清美	藤橋 定行
28	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	小林 希一	菊地 敏美	渡辺喜代士	小林 清美	藤橋 定行
29	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	吾妻 敦	菊地 敏美	渡辺喜代士	小林 清美	藤橋 定行
30	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	吾妻 敦	桑名 俊之	渡辺喜代士	小林 清美	藤橋 定行
令和元	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	山田 弘	桑名 俊之	渡辺喜代士	小林 清美	藤橋 定行
2	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	山田 弘	芳賀 俊幸	佐々木雅人	小林 清美	藤橋 定行
3	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	山田 弘	芳賀 俊幸	佐々木雅人	小林 清美	藤橋 定行
4	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	角田 雅仁	芳賀 俊幸	佐々木雅人	小林 清美	藤橋 定行
5	藤橋 定行		藤橋 定行	須藤 秀治	角田 雅仁	金子 伸之	佐々木雅人	小林 清美	藤橋 定行



団体	スポーツ推進委員	公 民 館		
役職名		館 長	主 事	社会教育補助員
昭47				
48				
49		鈴木 涉	根本惣一	
50		鈴木 涉	根本 惣一・富塚 栄助	
51		橋本 弘一	富塚 栄助	
52		籾 広美	富塚 栄助	
53		籾 広美	伊藤 正夫・富塚 栄助	
54		籾 広美	伊藤 正夫	
55		籾 広美	伊藤 正夫	
56		籾 広美	伊藤 正夫	
57		籾 広美	伊藤 正夫	
58		根本 惣一	伊藤 正夫	
59		根本 惣一	渡辺 勲	
60		根本 惣一	渡辺 勲	
61		根本 惣一	朝倉 陽一	
62		根本 惣一	朝倉 陽一	
63		大越 キヨ	朝倉 陽一	
平元		大越・渡部	朝倉 陽一	
2		渡部 博	佐藤 義勝・小林 清美・佐久間 勇・渡辺 輝子	
3		渡部 博	佐藤 義勝・小林 清美・佐久間 勇・渡辺 輝子	
4		渡部 博	三瓶 良三・小林 清美・佐久間 勇・渡辺 輝子	
5		渡部 博	三瓶 良三・小林 清美・佐久間 勇・渡辺 輝子	
6		遠藤 忠房	三瓶 良三・小林 清美・佐久間 勇・渡辺 輝子	
7		遠藤 忠房	三瓶 良三・小林 清美・佐久間 勇・中村美和子	
8		遠藤 忠房	三瓶 良三・小林 清美・佐藤 次男・中村美和子	
9		遠藤 忠房	佐藤今朝吉・小林 清美・佐藤 次男・中村美和子	
10		原竹 竹十	佐藤今朝吉・小林 清美・佐藤 次男・中村美和子	
11		原竹 竹十	佐藤今朝吉・小林 清美・八代 靖子・中村美和子	
12		原竹 竹十	佐藤今朝吉・名木野恵子・八代 靖子・中村美和子	
13		橋本 捷一	佐藤今朝吉・名木野恵子・八代 靖子・中村美和子	
14		橋本 捷一	佐藤 正信・名木野恵子・八代 靖子・中村美和子	
15		橋本 捷一	佐藤 正信・名木野恵子・八代 靖子・中村美和子	
16		橋本 捷一	佐藤 正信・名木野恵子・八代 靖子・中村美和子	
17		橋本 捷一	矢吹ミツ子・名木野恵子・佐久間宏美	
18		橋本 捷一	矢吹ミツ子・宮川 順子・佐久間宏美	三浦 六郎・渡辺 義康
19	渡辺 征子・神田与志雄	滝田 俊一	矢吹ミツ子・宮川 順子・佐久間宏美	三浦 六郎・渡辺 義康
20	渡辺 征子・神田与志雄	滝田 俊一	矢吹ミツ子・宮川 順子・佐藤 洋子	三浦 六郎・渡辺 義康
21	渡辺 征子・神田与志雄	滝田 俊一	高橋由美子・宮川 順子・菊地 真弓	三浦 六郎・粟野 保助
22	渡辺 征子・神田与志雄	滝田 俊一	高橋由美子・宮川 順子・竹内 寿江	酒井 照夫・粟野 保助
23	渡辺 征子・神田与志雄	佐藤 元二	高橋由美子・宮川 順子・長澤由美子	酒井 照夫・粟野 保助
24	渡辺 征子・神田与志雄	佐藤 元二	高橋由美子・滝澤 薫子・長澤由美子	酒井 照夫・粟野 保助
25	渡辺 征子・神田与志雄	佐藤 元二	高橋由美子・滝澤 薫子・村上 藤子	酒井 照夫・粟野 保助
26	渡辺 征子・神田与志雄	影山 琴子	根本みよ子・滝澤 薫子・村上 藤子	酒井 照夫・白石 健彦
27	川越 洋一・二瓶亜希子	影山 琴子	根本みよ子・滝澤 薫子・村上 藤子	酒井 照夫・白石 健彦
28	川越 洋一・二瓶亜希子	影山 琴子	根本みよ子・滝澤 薫子・村上 藤子	酒井 照夫・渡部 義勝
29	佐藤 悦子・橋本 晶子	影山 琴子	根本みよ子・伊東 朋子・村上 藤子	酒井 照夫・渡部 義勝
30	佐藤 悦子・橋本 晶子	影山 琴子	根本みよ子・伊東 朋子・村上 藤子	酒井 照夫・渡部 義勝
令和元	橋本 晶子	吾妻 敦	佐久間宏美・伊東 朋子・村上 藤子	酒井 照夫・渡部 義勝
2	橋本 晶子	吾妻 敦	佐久間宏美・伊東 朋子・秋葉栄久子	酒井 照夫・渡部 義勝
3	橋本 晶子・影山真一郎	吾妻 敦	佐久間宏美・伊東 朋子・秋葉栄久子	酒井 照夫・渡部 義勝
4	橋本 晶子・影山真一郎	吾妻 敦	佐久間宏美・伊東 朋子・柳沼 美穂	宗形 年行・渡部 義勝
5	橋本 晶子・堀 洋治	吾妻 敦	佐久間宏美・伊東 朋子・國分 淑恵・高橋 真理	宗形 年行・渡部 義勝

桑野地域公民館の役割

《運営方針》

地域住民自らが地域課題を解決する自主自立の基盤を育成するため、地域住民の幅広く多様化する学習要求に応え、常に新しい構想に基づき地域住民参加による生涯学習の拠点としての公民館を運営します。また、地域住民の教養向上と健康増進を図り、地域住民が生き生きと健康に暮らす明るく住みよい地域づくりを推進します。

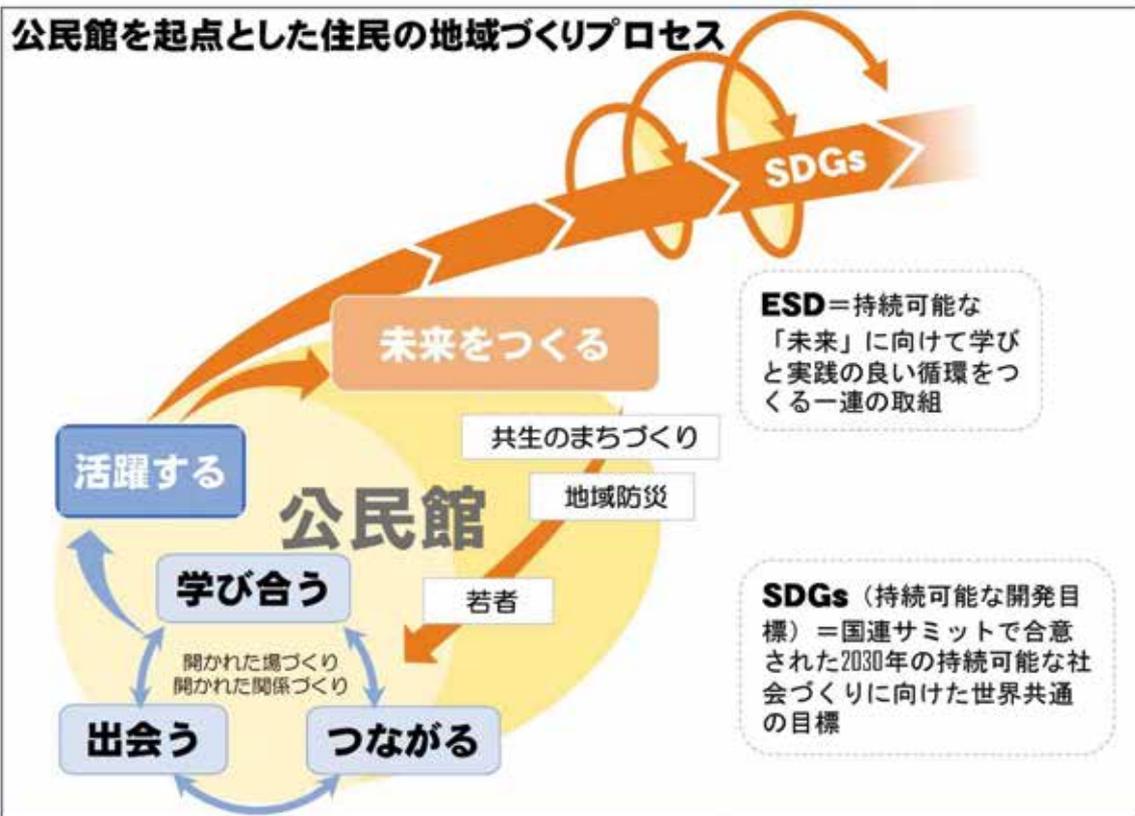
[努力目標]

- (1) **出会う** ～新しい人やこととの出会いをつくる～
 - ・出会った人同士、地域住民と職員がフラットに話し合える自由闊達な場を設定します。
 - ・誰でも（特に若者や子ども、障害のある人など）が気軽に立ち寄り、憩い、多様な人やことと出会い、ふれあうことができる場になるように努めます。

- (2) **つながる** ～新たなつながりをつくる～
 - ・公民館情報を含めた行政情報を提供したり、来館者の相談を受けたり、互いに情報交換したりするなどして、地域課題を顕在化し、地域住民の問題、関心につなげるようにします。
 - ・公民館が地域の様々な団体や組織とつながり、さらに地域での学びや文化活動、公民館活動とつながり、協働の取組みにつなぐようにしていきます。

- (3) **学び合う** ～学びと実践をつなぐ学びの場をつくる～
 - ・地域の問題を話し合うような学びの場をつくり、対話を通じて互いに学び合い、地域に広げていきます。
 - ・子どもの学びの場づくりを行います。

- (4) **活躍する** ～誰もが出会い、つながり、学んだことを活かせる場をつくる～
 - ・地域の課題解決や防災、地域づくりなどの分野で活躍できるように、その背中を押すとともに支えるようにしていきます。
 - ・地域で活躍する人たちの拠点として、活躍するための準備や、学び・学び直しの機会を提供します。



4年ぶりの体育館での体育祭



ふれあい科学館 アウトリーチ「親子星空観察」

各種表彰

青少年健全育成関係

(1) 青少年健全育成県民会議

青少年健全育成功労者の部

平成17年 遠藤 君子 (郡山市補導委員会)
 小林 清美 (桑野婦人会)
 平成21年 渡辺トシエ (郡山市補導委員会)
 平成22年 小林 清美 (知事表彰)
 令和4年 水野 一郎 (桑野地区協議会)
 八代 靖子 (桑野地区協議会)

青少年育成団体の部

昭和63年 桑野スポーツ少年団
 平成15年 小林 清美 (桑野婦人会)

青少年団体の部

平成12年 桑野スポーツ少年団

青少年指導者の部

平成10年 渡辺 征子 (郡山剣道スポ少)
 令和3年 佐藤 悦子 (桑野地区協議会)
 令和4年 渡辺喜代士 (桑野地区協議会)
 栗原 晃 (桑野地区協議会)

(2) 郡山市青少年健全育成協議会

功労者の部

平成10年 遠藤 君子 (補導委員会)
 平成22年 水野 一郎
 平成29年 八代 靖子 (婦人会)

青少年団体の部

昭和63年 桑野スポーツ少年団

青少年育成の部

平成10年 桑野婦人会

指導者の部

平成元年 渡辺喜代士
 平成2年 小林 清美
 平成5年 渡邊 征子
 平成6年 渡辺トシエ
 平成24年 佐藤 悦子
 平成29年 栗原 晃 (スポーツ)
 令和2年 佐久間教子
 令和3年 佐藤 久代
 令和5年 橋本 晶子

明るいまちづくり推進運動関係

〔功労賞〕

平成2年 有賀 篤 大原 義寛
 平成4年 国分 重三
 平成9年 味戸栄太郎
 平成14年 土屋 英雄
 平成20年 土屋 英雄 小林 清美
 大堀 博
 平成22年 添田 初美
 平成24年 青砥 照男 藤橋 定行
 令和3年 高萩 房之

〔推進大賞〕

平成3年 伊藤 タケ

〔推進賞〕

昭和63年 伊藤タケ
 令和3年 吉永 修武 齋藤 輝夫
 坪井 久知 木村 令子
 酒井 照夫 八代 靖子
 令和4年 仲田 健 星 康喜
 飯村 信史 須藤 秀治
 高橋 雅和

市花いっぱいコンクール

令和元年 「最優秀賞」 桑野小学校
 令和2年 「優秀賞」 桑野小学校
 令和3年 「奨励賞」 老人クラブ連合会桑野支部
 令和4年 「努力賞」 老人クラブ連合会桑野支部
 令和5年 「努力賞」 老人クラブ連合会桑野支部

標語・川柳コンクール

令和2年 「入賞」 渡部 義勝
 令和3年 「優良賞」 渡部 義勝 八代 友子
 令和4年 「優秀賞」 渡部 義勝
 令和4年 「優良賞」 木村 京子

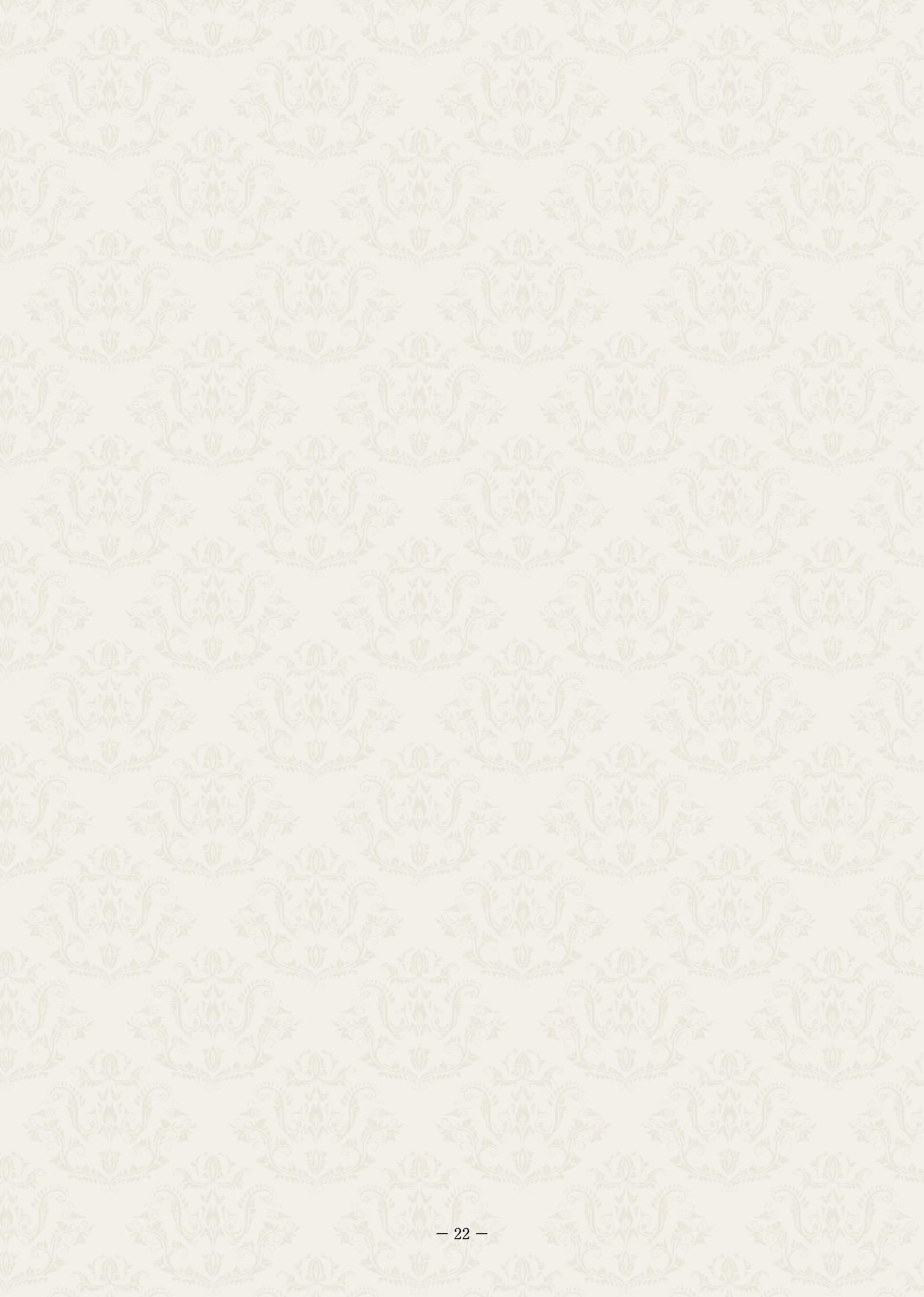
<備考>

〔功労賞〕 ・ 地区推進委員会委員長として6年以上
 ・ 委員を10年以上歴任し、かつ、委員長または副委員長を経験
 〔推進大賞〕 ・ 推進賞を受賞してから、なお、3年以上
 同一の社会奉仕活動を行っている方
 〔推進賞〕 ・ 社会奉仕活動を3年以上行っている生存者



Message

メッセージ



桑野地域公民館 設立50周年に寄せて



元公民館長
佐藤 元二

桑野地域公民館創立50周年誠におめでとうございます。開設当初より今日まで地域のコミュニティセンターとしてまた生涯学習や社会福祉活動等の拠点としてその役割を大いに果たしてきたことと思っております。

私が勤務しておりました当時のことを思い起こしてみますと、勤務していたのは平成23年8月1日から平成26年3月31日までで、東日本大震災・原発事故発生直後のことでした。公民館の建物は受付カウンターの硝子の破損はありましたが、建物には使用できないほどの被害がなかったのが幸いでした。地域では放射能汚染の不安があり、町内会の方々が汚染活動をするためいち早く立ち上がり、活動の拠点として公民館を利用させていただきました。また毎年8月に行われている『桑野地区盆踊り大会』を中止にすることなく実行委員会の皆さんの企画・工夫により駐車場から2階大集会室へ変更して行い明るさを取り戻す楽しいひとときとなったことが心に残っております。

桑野地区の3つの老人会の皆さんによって公民館の花壇に花を植え、植木や藤棚の剪定をするなど美化に多大なるご協力をしていただきありがとうございました。

公民館主催の様々な事業には小学生から高齢者まで多くの方々に参加していただきました。当時の主催事業を振り返りますと、夏・冬休みに小学生向けの『くわのっ子スクール』、高齢者向けの『くわの友・遊学園』ここでの館外研修では、25年度はNHKの大河ドラマ『八重の桜』にちなんだ史跡を語り部さんの案内ガイドで巡り、八重の生家跡地や山本家のお墓と菩提寺など普段行ったことのない史跡を巡ることもでき楽しい研修となりました。24年度からスタートした男性向けの講座『メンズクラブ・ダンディ講座』には若い方から年配の方まで幅広く受講していただき、本職の料理長を講師に招き料理の手ほどきを受けたり陶芸作品作りなどの活動をとおして親睦を深めることがで

きました。また文化祭等の地域行事に協力し活動の幅を広げ活躍したことも心に残っております。他に『子育てハッピー講座』、『市民学校 和紙ちぎり絵教室や文学講座』を開講し、多くの方が受講しました。

桑野地域公民館が地域住民の生涯学習や健康増進、人と人とのつながりを育む等活動の拠点として、今後とも地域に根ざした公民館でありますよう心よりご祈念申し上げます。



前公民館長
影山 琴子

桑野地域公民館設立50周年、誠におめでとうございます。社会教育施設として、地域の生涯学習拠点としての公民館の存在は大きいものです。そんな公民館に勤務できたことを大変嬉しく思っております。その間、藤橋連合会長はじめ、各町内会会長様、町内会役員の皆様そして地域の皆様方には大変お世話になりました。

公民館主催事業である「友・遊クラブ」「メンズクラブ」等の各種講座においては、地域の皆様と共に学び、新しい知識を得ることができ、そして楽しい時間を過ごすことができました。作品づくりも童心に返ったようで必死に作ったのも良い思い出です。研修旅行では、県内に住みながら知らなかった土地、旧跡などを巡ることができ、自分自身の引き出しが増えていくのが楽しみになりました。

また、文化祭、盆踊り大会、町民体育祭、町民運動会等、地域の行事に関わることができ地域住民の方々との交流の場が持たえたことも公民館に勤務したおかげかと感謝しております。現在はコロナ禍のため中止になってしまうことが多く残念です。一日も早くすべての行事が復活できるようお祈りしております。

さて、私は公民館に勤務する前は学校現場にいましたが、その小さな社会の中では家庭と学校のつながりしか接点がありませんでした。

家庭では家族のつながり、学校では上級生や先生との縦のつながりはありますが、ほとんどが横

のつながりでできています。

地域社会のように縦横のつながりが非常に複雑に絡み合っているのは地域社会だけなのです。

子育てには地域のつながりが重要になってきます。その一助を担うのも公民館の使命かと思っております。幸いなことに桑野地域公民館は桑野保育所、桑野小学校とも隣接しています。そんな環境を生かしながら、家庭・学校・地域が一体となって「社会の宝」である子育てができ、それぞれの連携を深めるための居場所づくりという役割を公民館が担えれば素晴らしいと思います。

最後になりましたが、これからも地域の皆様に愛され活用される桑野地域公民館でありますように、そして地域の皆様方の益々のご活躍とご多幸をお祈りしております。



桑野地域公民館 設立50周年を記念して



桑野婦人会会長
小林 清美

公民館設立50周年、おめでとうございます。

昭和46年9月自治省より「モデルコミュニティ地域」を県内唯一の指定を受け、47年8月にコミュニティ推進委員会が組織され、重鎮たちが心豊かな地域を目指し動き出しました。昭和51年桑野地区住民となり、公民館補助員として仲間に入れてもらい、よりよい地域活動を開始、一番の問題として今まで休会していた婦人会を復活させようと、町内会連合会、公民館関係者、そして地域の婦人達が、自分達の学習の場、仲間づくり、地域づくり、女性達の資質向上のため設立準備会を立ち上げ、伊藤タケさんをリーダーとして、町内婦人代表が町内を回り会員勧誘。大勢の仲間とともに遠藤君子さんを初代会長として、研修会、講習会、他団体との交流会を公民館の応援の元活動をはじめました。昭和62年には第1回高齢者とのふれあいの集いなど大好評のなか始動。

会長交代、平成2年、皇居奉仕、平成4年京都御所見学希望者20名で参加、団体でしか見学でき



ない施設まで見学。天皇両陛下、皇太子御夫妻の前で質問を受け、万歳三唱、大満足の見学でしたが勝手な行動が多く胃痛に。

自然を守るために、廃油利用の石けんづくりを、家庭排水により、川や海を汚さないよう活動を始め、市出前講座の講師となり、笹川、中村、小林、八代で各公民館学級、学校、その他の団体、希望箇所へ出かけ環境問題について考え、“廃油利用の石けん”のファンが増えました。

平成9年、文化祭食堂を開き“食を通して地域の人達と交流、ラーメンはじめ自慢の腕をふるったメニューで、作品を見に来た大勢の人達に喜んでもらう事ができ、大先輩の笹川タエ、白石キヨ、渡部千代子各氏の厳しくもやさしい指導で、私達を包んでくれ、私達は成長する事ができました。

社会教育功労賞、青少年県民会議会長賞と表彰を受け、遠藤館長の発案で“より高く”“より広く”“より楽しく”をモットーにさらに活動に力が入りました。橋本館長の時、ふれあいの集いの用具が増え、新しい倉庫の一部を提供してくれた事。



新年会、敬老会では、他団体とともに、余興に衣装に工夫をしながら“マツケンサンバ”を会場狭しと踊り、若さと恐れを知らない会員が参加者を熱狂させました。

これからも地域から必要とされる婦人会として若い人の入会を望み、先輩にしてもらったように厳しくもやさしく、あたたかい心で包んで一緒に昔の婦人会活動が続くよう望んでいます。



青少年健全育成
桑野地区協議会
会長

須藤 秀治

桑野公民館設立50周年大変おめでとうございます。

桑野地区の長年のコミュニティの場として大きな役割を果たしてきたことと思います。

私は、長男の小学校入学を機に亀田に引っ越してきました。この地域にお世話になって早30年が経とうとしています。

今思えば、方部子供会や盆踊りなど地域のイベントに子供たちが楽しく参加していたことが思い起こされます。

私自身も、方部長や青少協、PTAを通じて公民館でいろいろな活動をさせていただきました。

地域のコミュニティの場として公民館を利用させていただくこと、また地域の方々にお手伝いをいただきながら活動できたことに深く感謝申し上げます。

青少協のイベントに参加した小学生が、中学、高校と進学しても会えば挨拶してもらえると嬉しくて活動してきて良かったなど、つくづく感じております。

コロナ禍もあり、なかなか活動ができない時期がありましたが、昨年よりほぼ例年並みの活動を再開してきました。

子供たちの変わらぬ元気な様子を見ていると、少しでも子供たちのためによりよい企画を策定していきたいと思っています。

世界情勢や、昨今の時代背景をみると分断分裂の時代と言われています。

今こそ人と人を繋ぐ場としての公民館の役割は

大きくなってきているのではないのでしょうか。

大人も子供も地域の一員としてコミュニティの繋がりが強くなれば、防犯や災害などの助け合いがスムーズに進むこととなります。

今後、ますますの地域発展を盛り上げるため地域の拠点として役割は、大きいと思います。

皆様の協力をいただきながら、地域のため子供たちのために、青少協として尽力してまいります。



元職員

八代 靖子

桑野地域公民館 設立50周年に寄せて

「公民館で働いてみませんか？」そう言って下さった方の一言で桑野地域公民館職員として平成11年から6年間お世話になりました。

52年前私が現在の地に来た時桑野小学校はできたばかりで当時子どもの数は多く、校庭の端にはプレハブの教室がいくつかありました。公民館はまだなく、田んぼや畑が多く季節がくるとカエルが鳴き、ホタルが飛んでいたように思います。

時が過ぎ公民館ができ、そこで働き多勢の方に出会い過ごせて得たものは今の私の大切な財産です。以来、公民館は毎日多くの方が集い、学び、地域交流の場としてなくてはならない“居場所”となっています。これからも地域の輪が更に大き



く、強いものになり、ますます皆さんの居心地のいい交流の場として歩み続けられますようお祈り致します。

設立50周年おめでとうございます。



元職員
村上 藤子

公民館設立50周年おめでとうございます。平成25年から7年間職員として、地区の皆様にお世話になりました、そしてご無沙汰しております。

7年間夢中でした。初めて「高齢者学級」を担当した館外学習の会津路、ガチガチの私に学級生の方々から優しい言葉をかけていただき、11月下旬の雪景色が暖かい記憶として残っています。

また、桑野小卒業生の父兄の方から、この春高校生になった娘さんが公民館事業に参加して楽しかったと聞き、あの当時の子供さんの顔を思い出しておりました。

文化祭・体育祭での一人一人のパワーは地区反映の現れだと感じました。町内会を中心とした一致団結力は、桑野の地域力につながり、公民館も皆さんで作っているのだと在職中から感じておりました。

これからも、ますます桑野地域公民館が皆様に愛され発展される事を祈っております。



元職員
中村 美和子

「桑野地域公民館設立50周年」のお祝いを申し上げます。私も縁あって郡山へ来てから50年になりました。小原田から亀田に転居した時には既に公

民館があり、そこには管理人のご夫妻が常駐しておられました。私が公民館のお手伝いをさせていただいたのは短い間でしたが、その中で印象に残っている作業は、玄関にある「本日の予定」を記入する黒板が手書きであり、苦勞した事です。館長と相談し、各団体やクラブ名を書いた紙をマグネットですぐに貼れるよう工夫しました。今でも一部使用して下さるのを見ると、作って良かったです。公民館のお手伝いをしながら、様々な方から地域のことやアドバイスがありとても助かった思いがあります。



職員
伊東 朋子

桑野地域公民館設立50周年という記念すべき年に勤務できた事は意義深いものだと感じております。

公民館事業の中で印象深いのは「つなぐ・つながる・地域づくり」事業です。その中で保育所園児へクリスマスプレゼント作りがあり、毎回受講生の方々が園児へ喜んでもらえるように一生懸命作成している姿を拝見し、地域で園児の成長を見守ってくれている事を感じました。

また、小学生対象事業「太鼓教室」などの参加児童が、卒業しても手伝いに来てくれる姿をうれしく思い、このように成長しても公民館活動を思い出し、地域活動をつないでいってくれたら、素晴らしい事だと思います。

また、明るいまちづくり推進委員や青少協、社協、婦人会など各種団体の方が日々、地域活性化のため尽力されている事に感謝しております。

今後も桑野地域公民館に人々が集い学び、交流し、よりいきいきとした生活を送る支援ができるよう努めていきたいと思っております。





職員
佐久間 宏 美

私は、令和元年度から配属され、桑野地域公民館の勤務が現在5年目となります。

他の公民館から異動して新しい勤務地に着任するときはとても緊張しますが、桑野に異動となったときには特別に緊張しました。

なぜなら、公民館主事になりたての平成17年度から平成19年度の3年間、こちらに勤務していたからです。

なりたてならではあの失敗この失敗…、そして、助けてくださった地域の皆様…。

目のまわる毎日でした。

そして少し経験を積んだ2回目の勤務でわかったこと。

それは、桑野の強い地域力です。他の公民館を勤務して戻ったからこそわかったことです。

まちを歩けば自然に交わされるあいさつ。地域のどんな事業にも主体的に臨む姿勢など、変わらないことがいくつもありました。

地域を良くしようとする気持ちが、世代交代されても引き継がれていくものとして感じました。

そんな桑野地域公民館は私にとって何度でも勤務したい公民館です。



職員
高 橋 真 理

今年の8月下旬より桑野地域公民館の職員として働かせて頂いております。桑野地域の皆様には優しく、あたたかく迎えてもらい、日々お世話になっております。

桑野地域公民館では、くわのっ子スクール、男のわいわい講座、子育てサロン、くわの友・結学園、ランニングレッスンなどの多くの充実した内容の

教室や講座が企画されており、いろいろなことを館内や館外で楽しく学ぶことのできる、とても活気のある公民館であるという印象を受けています。今後も楽しい講座を企画できるように準備や運営に努めて参りたいと思います。

また、午前や午後、夜間まで毎日たくさんの方々に公民館を利用してもらっており、地域の皆様にとって大切な場所であることを感じています。公民館で勢力的に活動する地域の皆様の様子を拝見し、自身の運動不足を省み、体力づくりに励みたいと思っています。

今年は、桑野地区市民体育祭が4年ぶりに開催することになり、現在、地域の皆様に行事の準備や当日の運営方法などについて先導してもらいながら、たくさん教えてもらっています。これからも、いろいろ勉強させてもらいたいと思っていますので、よろしくお祈りします。地域の皆様に教えてもらっている毎日ですが、みんなで参加、みんなで開くという言葉を胸に、桑野地域の一員として今後もいろいろな講座や周年行事に携わっていきたくと思っていますので、よろしくお祈りします。



職員（社会教育補助員）
渡 部 義 勝

祝50周年！おめでとうございます。

あれから50年、半世紀を経て長い歴史を感じます。「オギャ〜」と生まれた赤ちゃんも50歳の大人です。昔は人生わずか50年とも言われましたが今や人生100年時代へと様変わりしてきました。昭和から平成そして令和と世も代わり震災や新型コロナ等に苦しめられながらも地域一丸となって助け合い踏ばり抜いて、ここに晴れて50周年を迎える事はこれまで長年に渡り携わって来た先輩方々の努力の賜物と賞賛するところであります。私も社会教育補助員として平成28年より着任し、館長はじめ各主事の方々と共に館内外の美化清掃管理を主にお手伝いさせております。当公民館はご存知のように他の地域に比べてほぼ中央部に位置して集まりやすい環境かと思っております。これからも協力

の手を緩めずにお手伝いできればと思っています。
何卒よろしくお願い致します。



職員（社会教育補助員）
宗形年行

この地域では、社会福祉協議会、明るいまちづくり推進委員会、世代間交流など、幼児・年少者から高齢者まで、様々な人々とのふれあいが活発に行われています。また、趣味を同じにする人たちが集り、スポーツ、詩吟、囲碁・将棋等を楽しんでいます。

このように、私たちにとって地域公民館は、日常生活の中心的な役割を果たしていると言っても過言ではない存在となっています。

これらの活動をこれからも永く維持できる地域であって、この街に住んでいて良かったといえるよう、少しでも協力していけたらと思っています。



職員（鍵管理人）
増子文子

桑野公民館鍵管理人を任せて約10年になります。台所に立つと窓から見えるのは公民館なので朝から晩、いえ夜中も目に飛び込んできます。毎日確認するというより、いつもと違っていると違和感を感じてチェック。廊下や倉庫の電気が消えていなかったり、車が駐車したままだったりがありました。市内でも稼働率が高いため桑野地域外の方も多く利用していますが、皆さんルールを守ってくださっているので管理人としての出番が多くはないです。

この地に暮らすようになって32年。ゲートボー

ルや夏祭りは三世代交流に露店が出るなど一日中賑わったものでした。藤棚に大きな桜の木がなくなり立派な駐車場になりました。何かを得るためには、何かを失わなければならないのが世の常です。でも失われたままではなくて、新たに得られる機会があるわけでソメイヨシノが植樹されたとのこと、成長が楽しみです。



桑野地域公民館 設立50周年記念誌に寄せて



桑野詩吟クラブ
会長
影山正三

いまだコロナ禍の終息は見られず、部屋の空気の入替え、手指の消毒は継続し、マスクは外せない現状でしたが、3年振りに体温測定や机のアルコール消毒は解除され、縮小停滞していた公民館活動も徐々に活発化してきた感がみられる今日この頃です。

当詩吟クラブは、現会員は、男性のみ50歳から80歳代までの11名です。福島岳風会郡山支部に所属しており、同支部にある30教場の中でも一番歴史のある教場です。会員は地元桑野地区をはじめ、小原田、深沢や富久山町、富田町、安積町等から通っています。詩吟の練習を通じて吟の向上と会員相互の融和を図り、和気あいあいのなか、交流を図っています。稽古及び練習日は、おおむね月3回で、

毎週土曜日の午後1時から約2時間、吟歴25年にわたる師範の橋本先生から指導教授を受け、練習に励んでいるところです。暮には納会、年初めには入浴を兼ねての新年会を開催し、地区発表会、大会等に参加しています。数年前の一時期は、女性会員4名を含め、20名ほどの会員を有していましたが、時代の波とともに、高齢化や会員の新教場開設、転居並び新入会員の減少に伴い現状会員になっています。

詩吟と言えば、「鞭声肅々の川中島」に代表される場所ですが、有名な中国の詩人である李白や杜甫作の漢詩や我が国の有名な菅原道真、西郷隆盛、伊藤博文など作の漢詩を吟じ、同詩文の内容、作者や背景を含め歴史的勉強にもつながっており、百人一首の和歌や小林一茶や芭蕉作の俳句なども詠じております。詩吟の歴史は平安時代のころからといわれており、祝い事、新築、送別、別離などの人生の節目に吟じられており、弔吟、献吟等は他に類のない素晴らしい伝統の世界と認識しています。詩吟は腹式呼吸かつ、腹の底から声をだすことで、健康及びストレス解消にもつながっています。興味のある方の見学、入会を歓迎いたします。是非一緒に楽しみましょう。

結びに当公民館長はじめ職員の方々のご理解とご協力をえて、当公民館を利用させていただいておりますことに感謝し、創立50周年をお祝い申し上げます。



なでしこ卓球クラブ
会長
池 下 健

平成23年3月11日、東日本大震災があり、公民館は4ヶ月程休館しておりました。そんな折、公民館の方に池下さんクラブを立ち上げたらと言われ、何人集めればよいのですか「6名以上」と言われ、近所の方に声をかけました。クラブ名はなでなでのなでしここと付けました。ならうよりなれる・できるこれからも卓球が、死ぬまで元気で、ころんでもただではおきぬ、その精神で最高齢は85才、若い方は71才、手、足、腰が痛くてもイタいのイタいのとんでけーと元気で卓球を楽しんで

います。2011年8月7日に発足致しまして、今年の8月で12年目となり、昨年中は練習が年44回684人が参加され、その他の事業として忘年会、新年会、クラブ発足記念食事会、一泊の卓球練習旅行等幅広く活動しております。

当クラブは原則として部外試合はせず、内部練習のみで、毎週火曜日の午後1時から4時まで途中入退可能であり、自由なクラブです。始まる前にラジオ体操、ワッショイ運動、笑う体操をやります。会員の皆様はとても元気な人もおり、私も負けないように頑張っています。クラブ員の中には歌が好きな方もおり、月に2回カラオケでストレスを発散しております。総会はかに徳で開催し、終了後、おいしい食事を戴きます。かに徳は、なでしこ発足以来利用しています。

桑野地域公民館長さん、及び職員の方々には、結成時から手とり足とり、お世話になり感謝申し上げます。これからも事故なく、楽しいクラブ活動を心掛けて行きたいと願っています。元気で長生きの秘訣は笑い薬が、いちばんのなでしこ卓球です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

祝 桑野地域公民館設立50周年



主催事業
「くわの友・結学園」
参加者
小野田 みゆき

桑野公民館の誕生と同じ50年前、公民館事業らしきものと出会いました。引っ込み思案な私を、育成会のおじさんがジュニアリーダー研修に誘ってくれたこと。大学進学で故郷を離れるまで、毎夏週末は、市内の子どもたちとの交流を楽しむ元気女子でした。

そして今、郡山に来て28年。桑野公民館を通じて、地域福祉ボランティアに関わる私があります。PTA、民生委員活動。子育てサロン、健康教室。コーラスや読み聞かせの趣味のサークル。公民館での生息率は高く、たまに職員さんと間違われることも(笑)。

郡山に親戚はいません。でも、遠くの親類より

近くの方！縁あって、この地で暮らし、多くの方々と出会い、学び合い、活動を共にしてこれたことは、私の大事な宝物です。

地域の集いの場の公民館。みんなの居場所として、桑野の未来に寄り添って、ますます住民同士のつながりを深めてくれる、そんな存在であってほしいと思います。



主催事業
「男のわいわい塾」
塾生

白石 健彦

1964年、昭和39年東京オリンピックの時、まだ桑野小学校もなく、勿論桑野公民館もない、桑畑、梨畑、畑の中にポツンと家があり、引っ越して来た時は、私は小学5年生。開成小学校への道のりは、田んぼ脇のどぶ川沿いを登校してました。国道49号線はまだ砂利道で桜通りがT字路で終わってました。

1990年、平成2年長女が桑野小学校1年生に入学した時、始めて桑野公民館の行事に長男がお世話になりました。桑野保育園の存在を意識しましたが、二女の桑野小学校卒業と同時に、前の道路をただただ通過するようになりました。

2013年、平成25年定年の年、桑野公民館主催事業「ダンディクラブ」に入会、味噌作り等の各料理、講座、館外学習など代わる代わる館長さん及び事務局の皆様方には大変お世話になり、これからもよろしく願い致します。



公民館事業参加者
渡辺 輝子

公民館事業はたくさん参加させていただき、楽しい思い出ばかりです。書道は昼、次に夜の部が開催され、私は夜勉強はじめ、クラブを結成し文化祭にも長いこと出品できました。現在は1人で書道誌2冊に作品提出、毎月メ切に追われています。着付教室は講師が小中学校の先輩であり楽しく教えていただきました。茶道は煎茶次に抹茶講座が開催され、私は両方学び平成2年2月16日の福島民報にサークル紹介で桑野煎茶クラブが紹介され、ラジオ福島でも放送されました。平成7年には炉が完成し炉のお点前も勉強できました。平成9年第25回文化祭の芸能発表会で詩吟と抹茶クラブ部員により「茶道吟」を発表しました。お茶席コーナーも設け多くの方に楽しんでいただきました。今年は11月3日郡山市民茶会が予定されています。水泳教室も講座ではじめ4泳法泳げるようになり、今は開成山プールに通っています。婦人会、講座、図書貸出等現在も利用させていただいています。



主催事業
「くわのっ子スクール」
参加者
高松 咲空

私は、けん玉教室に参加しました。参加したのは今回で3回目で、前回までは6級しか取れなかったの、「5級が取れるといいな」と思って楽しみにしていました。

5級は、「ひこうき」という技を10回のうち1回できれば合格できます。練習の時間に、手が痛くなるまで練習しました。検定では、3回できたので、5級を取ることができました。そして、4級に挑戦しましたが、「ふりけん」という技ができなくて、合格できませんでした。とても残念でした。

私は6年生なので、もう参加することはできませんが、これからも楽しんでけん玉を続けていきたいと思っています。けん玉を教えてくださいました先生方、公民館のみなさんありがとうございました。

これからもこの公民館のイベントに参加しようと思っています。小学生としては残り短い間になりましたがこれからもよろしくお願いいたします。



公民館事業参加者
中島大貴

僕は一年生のころから桑野公民館のイベントにたくさん参加してきました。オセロ大会、バスで行く遠足、けん玉教室、そば打ち、長期休業の宿題の講座などいろいろなことを体験しました。

一番楽しかったのは、遠足で行ったニジマスのつかみ取りです。これは三回くらい参加しました。ニジマスを手で壁のほうに追い込んだら捕まえられました。ニジマス取りが楽しくなり、まだ捕まえない人の分も取ってあげました。その後昼食の時に食べたニジマスの塩焼きはおいしかったです。

最近はおセロ大会がありました。一年生の時に初めて参加したときは、全勝したのに他にも全勝した人がいてじゃんけんになり、二位になってしまいました。五年生のときは一回だけ負けて、全勝が二人いて、三位となりました。悔しかったので勝つためにお父さんとたくさん対戦して練習しました。そして今年の小学生最後のオセロ大会では全勝してついに念願の優勝を果たしました。



事業参加者
現高校生
高宮紗季

私は桑野小学校出身で現在高校2年生です。小学生の時は桑野公民館でイベントにたくさん参加しました。クリスマスのイベントのお菓子の家作りがよく印象に残っています。結構な大きさで、自分で自由にデコレーションするのがとても楽しかったです。魚掴み&芋掘り体験にも参加し、自分で掴んだ魚を食べることができた、それがすごく美味しかったことを覚えています。長期休みには、ポスター教室や書き初め教室が開かれ、講師の先生に教わることができました。どちらも一人でやるより早く、良くできたものが完成できるので、ありがたかったです。毎年やっていた夏祭りでは、太鼓の演奏があったり、みんなで盆踊りを踊ったりしました。小さい祭りだけど賑やかで、とても楽しかったです。これら以外にも私はたくさんの桑野公民館での思い出があり、本当にお世話になりました。これからも小学生が公民館で楽しい思い出を作っていって欲しいです。

くわたん & くわぼん

キャラクター制作者

今泉服飾専門学校
佐藤 及々花さん

制作意図(本人コメント)

桑の葉から生まれた妖精です。二人は、考えることや行動など真逆だけど絆が強くとっても仲良しです。桑野地区のみなさんもこの2人のように強い絆で結ばれてほしいという気持ちを込めました。



くわたん

くわぼん

キャラクター命名者

亀田一丁目在住
大川原 美香さん

名前を付けた理由 (本人コメント)

優しい長男のくわたん(左側)、やんちゃな次男のくわぼん(右側)二人の男兄弟。

これからも仲良く、楽しく過ごしてほしいという願いを込めました。

記念式典

地域に支えられて50年 未来に向けて100年への旅立ち

日時 令和5年10月28日(土) 午前9時15分
場所 桑野地域公民館

記念式典次第

進行：副実行委員長 菊地 照夫

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1 開式の言葉 | 副実行委員長 佐藤 吉一 |
| 2 実行委員長あいさつ | 藤橋 定行 |
| 3 公民館長あいさつ | 吾妻 敦 |
| 4 来賓あいさつ | 郡山市議会議員 栗原 晃様 |
| 5 来賓・祝電紹介 | 副実行委員長 小林 清美 |
| 6 記念品贈呈 | |
| (1) 桑野西町内会長より「桑の木パネル」の贈呈 | |
| (2) 桑野地域公民館キャラクター命名者へ記念品贈呈 | 大川原 美香様 |
| 7 万歳三唱 | 副実行委員長 影山 正三 |
| 8 閉式の言葉 | 副実行委員長 佐藤 吉一 |

開式の言葉



副実行委員長 佐藤 吉一

実行委員長あいさつ



実行委員長 藤橋 定行

館長あいさつ



公民館長 吾妻 敦

来賓あいさつ



市議会議員 栗原 晃様

来賓・祝電紹介



副実行委員長 小林 清美

桑の木パネル贈呈



桑野西町内会長 佐藤 吉一

桑野地域公民館キャラクター命名者



命名者 大川原 美香 様

万歳三唱



副実行委員長 影山 正三

〈桑の木パネル〉



記念式典の様子



地 図



郡山市立桑野地域公民館

〒963-8033 郡山市亀田一丁目28-4
TEL/FAX : 024-934-3030
URL : kuwano-pub@city.koriyama.lg.jp



桑野地域公民館 HP



桑野地域公民館
インスタグラム



桑野地域公民館
公民館だより

編集後記

皆様方のあたたかいご支援のおかげをもちまして、桑野地域公民館も創立50周年を迎えることができました。この節目を記念して、ここに「50周年記念誌」発刊の運びとなりました。記念誌発行に当たりまして、ご祝辞・ご寄稿いただきました皆様方に対しまして厚くお礼申し上げます。

当公民館は、昭和46年に自治省から、福島県唯一のモデルコミュニティの指定を受け、コミュニティセンターを兼ねた桑野公民館が昭和48年着工、同49年にオープンしました。私たちは、その当時からの先輩各位のご尽力や、ご苦勞等に改めて敬意を表しつつ、これまでの桑野公民館のあゆみをできるだけ多くの皆様にわかりやすく伝えることができればという思いで作成しました。

桑野公民館は、地域に根ざし、地域活動の拠点として、地域で生活する人達の視点に立った活動の展開と、地域づくりの人材育成を担ってきました。

50周年という新たな出発に際して、さらに未来に向けての100年を目指して職員一同一丸となって一層努力を積み重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、今までご支援をいただいた皆様方に心から感謝と、お礼を申し上げ、また、今後とも桑野公民館に対しまして、変わらぬご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

令和5年12月吉日

50周年記念誌編集委員

吾妻 敦 伊東 朋子
佐久間宏美 高橋 真理





桑野地域公民館 50周年記念誌

発行日 令和6年1月26日

発行責任者 郡山市立桑野地域公民館
館長 吾妻 敦

印刷 株式会社 坂本印刷所
郡山市喜久田町菖蒲池14-26
TEL. 024 (959) 1234(代)

